

【本稿は同日リリースの英文の Credit Agricole Group Results at 31 March 2010 の抄訳です】

2010 年 5 月 12 日 パリ

2010年第1四半期

クレディ・アグリコル・グループ*

純利益(グループ帰属分): 9.49 億ユーロ
ティア1比率: 10.0%

クレディ・アグリコルS.A.

- 銀行業務純利益: 前年同期比 18.8%増加、同一条件ベースで 13.5%増加
- 営業総利益: 前年同期比 53.5%増加、同一条件ベースで 47.5%増加
- リスク関連費用: 前年同期比 1.0%減少
- 純利益(グループ帰属分): 4.7 億ユーロ前年同期比 2.3 倍
- ティア1比率: 9.6%、内 コア・ティア1比率: 9.2%

*クレディ・アグリコル S.A. 及び地域銀行の 100%を反映

2010 年第 1 四半期の業績を見直すために、さる 5 月 12 日、ルネ・カロンを議長とし、クレディ・アグリコル S.A.の取締役会が行われました。

景気、及び、金融市場は多少の改善はあったものの、依然、不透明感が強い状況下で、クレディ・アグリコル S.A.は力強い業績の伸びを達成することができました。純利益(グループ帰属分)は、すべての事業分野で好成績を収めましたために、2010 年第 1 四半期では前年同期比 2 倍以上の伸びを達成し、4.7 億ユーロとなりました。

継続的、かつ、堅調なモメンタムに支えられ、銀行業務純利益は 13.5%増加し、一方、営業費用はほぼ横ばい(1.2%増)の推移に留まったことから、営業総利益は前年同時期比で 47.5%増と、会社全体の好業績を反映するものとなりました。リスク関連費用の合計が 1.0%の減少と、安定していたことも、営業総利益の増加に寄与しました。

経常収益を計上する事業は、いずれも、このような強いモメンタムを反映しています。フランス国内のリテール・バンキング部門では、地域銀行のリテール業務における銀行業務純利益が 8.3%も伸び、預金高(7.2%増加)、融資残高(3.2%増)、共に堅調に推移しました。LCL では 43000 件の新規口座が純増となり、2009 年第 1 四半期比では 27%の増加となりました。一方、当座預金は 13.6%増加し、居住用住宅ローン貸付残高は 6%近く増加しました。このように、クレディ・アグリコル・グループはフランス経済におけるトップ金融機関の地位を確認することとなりました。国際リテール・バンキング事業においては、グループが営業基盤を持ついくつかの国々で景気が悪化しているにも関わらず、銀行業務純利益は 4.8%増加いたしました。

専門金融サービス部門におきましては、経常収益は前年同時期比で 15.3%増加しました。資産運用、保険、及び、プライベート・バンキング事業では、アムンディ、(Amundi)を創設し、カセイ(S(CACEIS))を買収したことにも支えられ、事業は堅調に推移しました。収益の総額が 2009 年第 1 四半期比でほぼ倍増の 146 億ユーロとなったことから、同部門の銀行業務純利益は 54.1%増加しました(同一条件ベースでは 24.1%増加)。

法人営業及び投資銀行部門では、前年同期の水準が通常以上に高かったことから、既存事業による収益は 8.6%減少しました。しかし前期比では、他部門の中でも、CA-CIB はストラクチャードファイナンス部門からの力強い寄与により、収益は 20.3%の増加となっております。

金融危機による悪影響が二年に及んだ後、法人営業及び投資銀行部門の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 1.57 億ユーロを計上いたしました。クレディ・アグリコル S.A.は一部事業からの撤退によって発生する最終的な損失額と回収額を堅めに想定しているものの、実際に発生している費用は予想通りに減少を続けており、既存事業による利益により(3.79 億ユーロ)、非継続事業によるコストを十分に吸収することができました。

ギリシャでは、経済状況が芳しくないにもかかわらず、昨年秋に発表したリストラ計画の進捗に伴い、エンポリキの営業総利益は 4600 万ユーロにまで改善いたしました。クレディ・アグリコルによるエンポリキの支援が奏功し、マージンと地元顧客からの信用が改善したため、収益は 25.1%回復し、一方、営業費用は 5.7%減少いたしました。しかし、新たな債権に関するリスク関連費用は低いにもかかわらず、1 年以上前に導入された会計基準に従い、マクロ経済の状況がすべての債権に影響することを考慮して、第 1 四半期には相当額の不良債権引当金を計上いたしました。

合意に従い、インテサ・サンパオロ(Intesa SanPaolo)における弊社持分 0.8%の株式売却は 2 月末までに完了しました。そのため、今第 1 四半期にはこの売却に伴う損失を計上しております。

クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 4.7 億ユーロとなりました。法人営業及び投資銀行部門の非継続事業による影響と、インテサ・サンパオロ株の売却損を除きますと、第 1 四半期の純利益は 8.5 億ユーロとなり、この数字がグループ事業全体の業績をより実態に即して表していると考えます。

*
* *

取締役会の最後に、ルネ・カロン議長は、以下のようなコメントを発表しました;「この決算はグループ全体が堅調であることを裏付けております。特に、リテール部門は、この分野で我々が強い基盤を持ち、成長のモメンタムが生じていることを示しています。クレディ・アグリコルはフランスの地域社会に根付いた伝統と顧客に忠実であり、また、フランス経済においても重要な金融のパートナーであることを確認するものであります。これまで以上に、弊社従業員一同、今日の難しい経済状況下にあって、顧客の信頼に応えるように尽くす所存であります。」

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのジャン-ポール・シフレは、以下のように付け加えました;「第 1 四半期の利益は、18 ヶ月前に打ち出したリフォーカス・ストラテジーが順調に進展しました結果、前年同期比で倍以上に増加いたしました。グループの従来型事業が好調であっただけでなく、法人営業及び投資銀行部門も 1.57 億ユーロのグループ純利益への寄与を達成いたしました。これらの決算はまた、ギリシャで想定される不良債権への引当てを充分に行った上での結果です。」

2010 年決算スケジュール

2010 年 5 月 19 日	年次総会
2010 年 5 月 27 日	権利落ち日
2010 年 6 月 21 日	配当支払い日
2010 年 8 月 26 日	2010 年第 1 四半期、及び、上半期決算
2010 年 11 月 10 日	2010 年第 3 四半期、及び、9 ヶ月決算

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1 / Q1	Change Q1 / Q4	Change Q1 / Q1 *
Net banking income	4,824	+18.8%	+7.3%	+13.5%
Operating expenses	(3,162)	+6.2%	(0.1%)	+1.2%
Gross operating income	1,662	+53.5%	+25.1%	+47.5%
Cost of risk	(1,074)	(1.0%)	(16.6%)	
Operating income	588	nm	nm	
Equity affiliates	425	+32.4%	x2.0	
Net income on other assets	(163)	nm	nm	
Tax	(270)	x3.3	nm	
Gain (loss) on discontinued operations	4	nm	nm	
Net income/(loss)	584	x2.4	7.6%	
Net income – Group share	470	x2.3	+8.5%	

* 同一条件ベース

2010 年第 1 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の**銀行業務純利益**は、2009 年第 1 四半期比 18.8%増加し、48.24 億ユーロとなりました。同一条件ベースでは、前年同時期比 13.5%増加しました。銀行業務純利益には、コア事業の堅調に支えられた、法人営業及び投資銀行部門による 13 億ユーロ近い寄与(10.7%増)、そして、資産運用、保険、プライベート・バンキングから 12 億ユーロ(54.1%増)の寄与、を含んでおります。また、専門金融サービス部門の業績が大変に好調で、銀行業務純利益が前年同期比で 15.3%増加し、9.83 億ユーロとなったことによる寄与もありました。LCL と国際リテール・バンキングは強い収益の伸びが持続し、前者の収益は 3.2%増の 9.65 億ユーロ、後者は 4.8%増の 7.22 億ユーロ、をそれぞれ達成しました。

同一条件ベースで、すべての事業分野と組織における厳しいコスト管理が奏功し、グループの**営業費用**は前年同期比でほぼ横ばい(1.2%増)に留まりました。その結果、2010 年 3 月 31 日時点のコスト/収益比率は 7.8%上昇し、65.5%と顕著に改善しました。

第 1 四半期の**営業総利益**は 16.62 億ユーロを達成し、前年同時期比で 53.5%の増加(同一条件ベースでは 47.5%増)となり、安定はしていますが、引き続き高い水準のリスク関連費用を容易に吸収することができました。

コスト関連費用は貸付残高の 95 ベーシス・ポイントを計上しておりますが、経済環境が明らかに安定化に向かっていることから、前年同期比で 1.0%減少いたしました。2009 年第 1 四半期と同様に、この費用の多くの部分は、国際リテール・バンキング(3.5 億ユーロ、主にエンポリキ向け)、専門金融サービス(3.28 億ユーロ)、及び、投資銀行業務(2.87 億ユーロ)向けに集中しております。ノン・パフォーミング・ローン¹は、2010 年 3 月 31 日時点で、貸付企業、個人顧客向け債権全体の 3.9%でした。これらノン・パフォーミングローンの 68.0%は、積立金を含む引当金によってカバーされています。

関連会社の収益は前年同時期比で 32.4%増え、4.25 億ユーロとなりました。フランス国内でのリテール・バンキング事業の好調、及び、グループ課税措置によるプラスの効果から、地域銀行部門による寄与がその多くを占めます(3.33 億ユーロ、2009 年第 1 四半期の 2.65 億ユーロに対して、25.7%の増加)。

2010 年第 1 四半期の**その他資産による純利益**は、インテサ・サンパオロの持分 0.8%を 1.59 ユーロで売却したことが主な要因で、1.63 億ユーロの赤字となりました。

全体では、**純利益グループ帰属分**は 4.7 億ユーロを達成し、前年同時期比で 2.3 倍の増加となりました。

財務状況

クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は引き続き健全に推移しております。コア・キャピタルは2010年第1四半期に647億ユーロ(控除前)に達し、前四半期比では1.7%増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.の自己資本比率は2009年第4四半期9.8%であったのに対し、今四半期は10.0%となりました。

ティア1ソルベンシー(支払能力)比率は2009年最終四半期の水準から0.1%上昇し、この四半期中に新たに大きな資本取引は発生しませんでした、2010年3月31日時点で9.6%となりました。

コア・ティア1比率は9.2%と、引き続き高水準を維持しております。

また、クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は強固な地域銀行にも下支えされています。格付けは、金融危機が勃発した2007年7月から変わっておらず、スタンダード&プアーズ社ではAA-、ムーディーズ Aa1、そして、フィッチ AA-となっております。

クレディ・アグリコル・グループの資本比率は、2010年3月末時点で11.2%、ティア1比率は10.0%でした。銀行開示ベース(unfloored)では、これらの比率はそれぞれ、12.5%及び10.8%でした。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net income accounted for at equity (at 25%)	209	+54.8%	+23.7%
Change in share of reserves	124	(4.6%)	nm
Income from equity affiliates	333	+25.7%	+92.9%
Tax*	-	nm	nm
Net income – Group share	333	+86.7%	+92.9%

* 2009 年までに地域銀行から受け取った配当の税金インパクト

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	965	+3.2%	(4.6%)
Operating expenses	(641)	(1.1%)	(2.9%)
Gross operating income	324	+12.9%	(7.9%)
Cost of risk	(96)	(2.8%)	(30.6%)
Operating income	228	+21.2%	+6.8%
Net income – Group share	151	+21.2%	+6.8%

2. 国際リテール・バンキング

第 1 四半期の国際リテール・バンキング部門は、ギリシャ経済の悪化による影響を受けました

エンポリキと 2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコ (Credit Uruguay Banco) を業務撤退に伴い譲渡した分を除けば、国際リテール・バンキング部門は底堅く推移しました。同事業による純利益グループ帰属分への寄与は今第 1 四半期に 8800 万ユーロと、前年同時期比で緩やかな 6.5% の減少となりました。クレディ・デュ・モロッコ (Credit du Maroc)、及び、クレディ・アグリコル・エジプトは共に順調で、銀行業務純利益は前年同時期比でほぼ横ばい (0.8% 減) でした。営業総利益の減少は前年同時期比で 5.8% でした。リスク関連費用は前年同時期比ではほぼ横ばいでしたが、前四半期に対しては 30.1% 減少しました。営業収益は 1.02 億ユーロで、前四半期比と比較して 14.8% 増加しました。

全体では、**エンポリキを含めた場合**、エンポリキが貸付事業のすべてのセグメントに関して、景気悪化に伴い 2.54 億ユーロという巨額の引当を行ったために、国際リテール・バンキング部門の決算はギリシャの景気悪化による影響を受けることとなりました。

合計では、エンポリキを含め、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分は 2010 年第 1 四半期に 9700 万ユーロの損失を計上いたしました。

注意：以下の 2009 年度決算数値は、2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコを業務撤退に伴い譲渡したことによる影響を調整済みです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	722	+4.8%	(2.4 %)
Operating expenses	(478)	(0.1%)	(3.8%)
Gross operating income	244	+16.0%	+0.5%
Cost of risk	(350)	+31.5%	+26.9%
Equity affiliates	47	+1.1%	x2.1
Pre-tax income	(59)	x5.9	nm
Net income from discontinued activities	4	nm	nm
Net income – Group share	(97)	x4.6	nm

ギリシャにおいて、エンポリキの営業成績は順調に推移しました。リストラ・再生計画に基づき、逆ザヤとなっている定期預金を大幅に減らしたことから、金利差益は大幅に改善し、銀行業務純利益は 25.1% 増加しました。加えて、エンポリキの貸付金利は 2010 年度予想よりも高く推移しました。更に、エンポリキはクレディ・アグリコル S.A. の支援によって、同業他社よりも低コストで資金を調達し、また、定期預金の上乗せ金利を支払わないというエンポリキ独自の決断にも関わらず、預金全体の減少を抑えることができました。費用は大幅に削減され、その結果、営業総利益は 4600 万ユーロに増加しました。

2010 年第 1 四半期のリスク関連費用はギリシャの経済状況を反映すべく引当を上積みしたことから、2.54 億ユーロとなりました。リストラ・再生戦略によって貸付け基準が厳しくなったことから、新規ローンのリスク関連費用はかなり低くなっております。また、欧州連合及び IMF がギリシャの救済緊急措置を発動したことから、クレディ・アグリコル S.A. はエンポリキのリストラ・再生計画の見直しを検討しております。

イタリアでは、カリパルマ・フリウルアドリア (Cariparma FriulAdria) が過去 12 ヶ月に渡り、短期金利が低かったこと、及び、2009 年 7 月にオーバードラフト・フィー (当座貸越手数料) が廃止になったことによる、マイナスの影響を受けました。銀行業務純利益は、手数料収入が底堅く推移し、中・長期貸付が順調に進んだにも関わらず、前年同時期比で 7.1% 減少しました。カリパルマ・フリウルアドリアが収益性重視の対策を講じたことから、費用の伸びは前年同時期比で 1.2% に留まりました。第 1 四半期のコスト関連費用は急劇に減少し (前四半期比では 9.0% 減)、対貸付残高 76 ベーシス・ポイントとなりました。

カリパルマ・フリウルアドリアによる純利益グループ帰属分への寄与は、2010 年第 1 四半期に 3300 万ユーロとなりました。カリパルマ・フリウルアドリア・グループのイタリアでの純利益は、2010 年第 1 四半期に 5150 万ユーロとなりました。

更に、クレディ・アグリコル S.A.はイタリアでのポジションを強化する計画です。クレディ・アグリコル S.A.はインテサ・サンパオロの 150 から 200 の支店を買収することによって、イタリア内の支店数を合計 900 以上に拡大することによって、イタリアでのポジションを現在の 9 位から 7 位へと引き上げる意向です。

最期に、我々はリテール業務を欧州及び地中海沿岸地方に再特化する計画であり、そのために、クレディ・ウルグアイ・バンコを BBVA に売却することに合意いたしました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	983	+15.3%	+0.8%
Operating expenses	(429)	(0.4%)	(3.1%)
Gross operating income	554	+31.2%	+4.1%
Cost of risk	(328)	+23.6%	(22.9%)
Operating income	226	+44.2%	x2.1
Equity affiliates	3	nm	nm
Pre-tax income	229	+44.0%	x2.1
Net income – Group share	127	+40.3%	(15.8%)

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*	Change Q1/Q1**
Net banking income	1,183	+54.1%	+13.1%	+24.1%
Operating expenses	(615)	+39.5%	+8.4%	+5.8%
Gross operating income	568	+74.0%	+18.8%	+52.5%
Cost of risk	(2)	nm	nm	nm
Equity affiliates	1	nm	nm	nm
Pre-tax income	564	+71.8%	+18.0%	+51.5%
Net income – Group share	349	+53.3%	(3.4%)	+49.4%

* 2009 年の数値は、BFT バンクのコーポレート・センターへの譲渡を調整済み。

** 同一ベース：アムンディの創設、カセイスの持分増加、及び、HSBC フランスの資産統合、を調整済み。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

金融危機の影響で厳しい状況が二年間続いた後、法人営業及び投資銀行部門は事業全体で、2010 年第 1 四半期に 1.57 億ユーロの純利益を計上いたしました。非継続事業による損失を、継続事業が十分に吸収し、純利益グループ帰属分は 3.79 億ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Q1 2010 Ongoing activities	Change Q1/Q1 Ongoing activities	Change Q1/Q4 Ongoing activities
Net banking income	1,281	1,463	(8.6%)	+20.3%
Operating expenses	(829)	(804)	+6.6%	+2.5%
Gross operating income	452	659	(22.1%)	+52.8%
Cost of risk	(287)	(147)	(51.3%)	(24.0%)
Operating income	165	512	(5.9%)	x2.1
Equity affiliates	34	34	(8.6%)	x2.3
Pre-tax income	199	546	(6.4%)	x2.1
Tax	(34)	(154)	(9.6%)	x5.0
Net income – Group share	157	379	(5.1%)	+75.2%

主に営業収益が堅調であったことから、継続事業による純利益グループ帰属分は前四半期比で 75.2%増加しました。ローン・ヘッジや発行済債券の再評価による影響を除いたベースで、銀行業務純利益は 2009 年第 4 四半期と比較して 7.4%増加しました。これはコア事業分野での強固なポジション、とりわけ、ストラクチャード・ファイナンスとキャピタル・マーケットでの強さを反映するものであります。

更に、非継続事業からの撤退も、業績改善に寄与しています。エキゾチック(非標準型)エクイティ・デリバティブや、その関連商品による業績への影響は、もはや顕在化するほどの額ではなく、CDO(債務担保証券)、CLO(ローン担保証券)、ABS(資産担保証券)及び、保証人に関する損金は減少しています。非継続事業に関する最終的な損失や ABS CDO の回収率についての前提を厳しく設定しているにも関わらず、撤退に関する費用は減少が続いています。全体では、非継続事業による純利益グループ帰属分への寄与は 2.22 億ユーロと、前四半期比で 33%以上減少しました。

継続事業におけるコスト/収益比率は 55%で、一方、リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、減少に向かっています。

戦略の方向転換に伴い、市場リスクへのエクスポージャーを減らしていることが主要因で、リスク削減は続いています。その結果、規制による VaR(ヴァリューアットリスク、最大損失予想額)におけるボラティリティが低下しており、2009 年 12 月 31 日に 2900 万ユーロであったのに対し、2010 年 3 月 31 日は 2700 万ユーロでした。

ファイナンス事業

ファイナンス部門では、収益は前四半期の 5.8 億ユーロから、2010 年第 1 四半期には前年同時期比で 12.3%増の 6.51 億ユーロ(ローン・ヘッジによる収益 3700 万ユーロを含む)となりました。今四半期には、ストラクチャード・ファイナンス、中でも、プロジェクトファイナンス、輸出ファイナンス、及び、商品ファイナンスの事業で強いモメンタムを享受しました。逆に、2009 年下半期に始まったマージンの低下に伴い、商業銀行事業の収益は若干ではありますが、減少しました。ローン・ヘッジのアクティブな運用によって、これらのインパクトを顕在化しない程度まで抑え、また、ボラティリティを顕著に縮小させました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	651	+42.8%	+12.3%
Operating expenses	(202)	(3.6%)	+0.2%
Gross operating income	449	+82.3%	+18.8%
Cost of risk	(131)	(52.2%)	(27.3%)
Operating income	318	nm	+61.0%
Equity affiliates	33	(13.4%)	x2.3
Pre-tax income	351	nm	+65.0%
Tax	(95)	nm	x2.4
Net income – Group share	246	nm	+45.7%

費用は厳しく管理され、2009 年第 1 四半期比で 3.6%減少しました。

リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、前四半期比で 27.3%減少しました。積立金は 17 億ユーロと安定しており(2009 年 12 月 31 日時点の 16 億ユーロと比較して)、バーゼル 1 のリスク・ウェイト資産に対するリスク関連費用は、2009 通年の 76 ベーシス・ポイントに対して、同四半期は 42 ベーシス・ポイントとなりました。

ファイナンス活動による純利益グループ帰属分は、今第 1 四半期に 2.46 億ユーロに達し、前四半期の 1.69 億ユーロに対して 45.7%増加しました。

資本市場及び投資銀行

資本市場及び投資銀行の収益は第 1 四半期に堅調に推移し、2009 年第 4 四半期比で 16%増加しました(発行債券の評価損を除くベース)。2010 年 5 月に、クレディ・アグリコル CIB と中国で No1 の投資銀行であり機関投資家向けの証券業務のトップ会社であるシティック証券(Citic Securities)は、将来的に同分野を拡大する戦略を基に、公式にエクスクルーシブな関係の構築に向けて協議を開始するという文書に署名をいたしました。その目的は、戦略の方向転換を推進し、アジアでの資本市場での成長機会を捉え、中国市場に強みを持つべく、二社が共同でアジア全域を地盤とし、大企業を顧客対象とする、トップ級の証券会社、及び、投資銀行を設立するというものです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	812	(29.0%)	+27.6%
Operating expenses	(602)	+10.5%	+3.3%
Gross operating income	210	(65.0%)	x4.0
Cost of risk	(16)	(41.9%)	+25.8%
Operating income	194	(66.1%)	x4.7
Equity affiliates	1	nm	(10.0%)
Pre-tax income	195	(65.8%)	x4.7
Tax	(59)	(64.8%)	nm
Net income – Group share	133	(66.3%)	x2.8

2010 年第 1 四半期に債券関連業務は再度、好成績を収め、収益は前年同時期比で 23%増加し、5.32 億ユーロとなりました。この業績は債券デリバティブズによる収益が堅調であったこと、及び、2009 年末の低迷から、事業が緩やかに回復していることによるものです。資金業務、及び、債券発行が堅調な収益基盤であったことも奏功いたしました。

シュブルー(Cheuvreux)と CLSA の両社における証券業務が、今四半期末にかけて順調に推移したことから、株式業務(株式デリバティブ、ブローカー業務、及び、アドバイザー・サービス)の収益は前四半期比で 6%増加し、3.78 億ユーロとなりました。ニューエッジ(Newedge)はプライム・ブローカレッジや商品分野での成績が好調で、上場市場でのトップ・ポジションを更に強化いたしました。仕組債券の評価損は、2010 年第 1 四半期にもマイナスの影響となり、9800 万

ユーロの損失を計上しました。

以上を合計すると、資本市場部門と投資銀行部門における継続事業の収益は 8.12 億ユーロとなり、2009 年第 4 四半期比で 27.6%増加しました。

資本市場部門と投資銀行部門における費用は前四半期比で 3.3%増加しました。コスト関連費用は適切に管理され、2009 年第 4 四半期に 1200 万ユーロであったのに対し、今四半期には 1600 万ユーロとなりました。その上に、継続事業の VaR(ヴァリューアットリスク、最大損失予想額)を 3500 万ユーロというリミットを大幅に下回る水準にリスクを抑えた一方で、収益の増加を達成いたしました。

資本市場部門における税引き後の純利益グループ帰属分は 1.33 億ユーロと、2009 年第 4 四半期比で 2.8 倍となりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	(182)	(58.9%)	(32.8%)
Operating expenses	(25)	(13.8%)	(24.2%)
Gross operating income	(207)	(56.1%)	(31.9%)
Cost of risk	(140)	+4.5%	(36.9%)
Pre-tax income	(347)	(42.7%)	(34.0%)
Tax	120	(33.7%)	(35.1%)
Net income – Group share	(222)	(46.6%)	(33.3%)

非継続事業による収益は今第 1 四半期に 1.82 億ユーロの赤字となりました。これは 2009 年第 4 四半期の 2.71 億ユーロの赤字と比較すると、大幅な改善となります。

CDO、CLO、及び、ABS ポートフォリオの最終的な損失額と回収率の前提は、2009 年よりは少ないものの、引き続き、保守的に設定しております。これは、米国の居住用住宅ローン向けを中心に、銀行業務純利益、及び、無担保融資、保証付き融資のコスト関連費用に関して、評価損が再度計上されることを想定するためです。

コリレーション事業では、ポートフォリオの動向や指標は、2009 年に開始された安定化計画に沿ったものとなっています。加えて、エキゾチック(非標準型)株式デリバティブによる影響はすでに認識されない程度のもthingとなっております。

全体では、純利益グループ帰属分は 1.2 億ユーロの税額控除後ベースで 2.2 億ユーロの損失を計上いたしました。

6. コーポレート・センター(その他財務収支等)

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*
Net banking income	(310)	(11.9%)	+31.3%
Operating expenses	(170)	(9.0%)	+0.7%
Gross operating income	(480)	(10.9%)	+18.6%
Cost of risk	(11)	(41.9%)	(64.7%)
Operating income	(491)	(12.0%)	+12.4%
Equity affiliates	7	nm	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(160)	nm	nm
Pre-tax income	(644)	+9.6%	+44.8%
Net income – Group share	(550)	+44.1%	+79.2%

* BFT バンク(BFT Banque)を 2010 年第 1 四半期にコーポレート・センターへ移管したことから、上記の伸び率は、プロフォーマ・ベース(見積もり)です。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

クレディ・アグリコルの純利益グループ帰属分は、グループ・ベースでアムンディ(Amundi)の創設、カセイス(Caceis)の買収、といった業容の拡大があったこと、及び、経済状況が安定に向かい、すべての事業分野で利益率が向上したこと等の状況を反映し、前年同時期比で2.2倍の9.49億ユーロとなりました。

今第1四半期の銀行業務純利益は前期比15.8%増の83億ユーロとなりました。費用は前年同時期比では5.3%増加しましたが、合理化効果に伴い、前四半期との比較では2.7%の増加に留まりました。

営業総利益は地域銀行の業績が大変に好調であったことも寄与し、前年同時期比で36.6%増、前四半期比では17.2%増の33億ユーロを達成いたしました。

2010年第1四半期にはエンボリキが大幅な評価減を行ったにもかかわらず、リスク関連費用は前年同時期比でほぼ横ばい、前四半期比では17.2%減少しました。

€	Q1-10	△ Q1/Q1	△ Q1/Q4*
Net banking income	8,335	+15.8%	+4.3%
Operating expenses	(5,030)	+5.3%	(2.7%)
Gross operation income	3,305	+36.6%	+17.2%
Cost of risk	(1,541)	(1.2%)	(11.8%)
Operating income	1,764	X2.1	+64.6%
Equity affiliates	89	64.8%	X2.8
Net income on other assets	(162)	nm	nm
Pre-tax income	1,691	+85.2%	+51.1%
Tax	(633)	+41.3%	X5.8
Net income	1,062	X2.3	(0.5%)
Net income – Group share	949	X2.2	(0.7%)

クレディ・アグリコル S.A.の2010年第1四半期の財務情報は、当プレス・リリース及び添付の資料から構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、<http://finance.credit-agricole.com>の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq.の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

Press relations

Crédit Agricole S.A.

Anne-Sophie Gentil ☎ +33 (0)1 43 23 37 51

M: Communication

Louise Tingström ☎ +44 (0) 789 906 6995

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78

Nathalie Auzénat +33 (0) 1 57 72 37 81

Sébastien Chavane +33 (0) 1 57 72 23 46

Fabienne Heures +33 (0) 1 43 23 06 38

Marie-Agnès Huguenin +33 (0) 1 43 23 15 99

Aurélien Marboeuf +33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment.

Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.

【本稿は同日リリースの英文の Credit Agricole Group Results at 31 March 2010 の抄訳です】

2010 年 5 月 12 日 パリ

2010年第1四半期

クレディ・アグリコル・グループ*

純利益(グループ帰属分): 9.49 億ユーロ
ティア1比率: 10.0%

クレディ・アグリコルS.A.

- 銀行業務純利益: 前年同期比 18.8%増加、同一条件ベースで 13.5%増加
- 営業総利益: 前年同期比 53.5%増加、同一条件ベースで 47.5%増加
- リスク関連費用: 前年同期比 1.0%減少
- 純利益(グループ帰属分): 4.7 億ユーロ前年同期比 2.3 倍
- ティア1比率: 9.6%、内 コア・ティア1比率: 9.2%

*クレディ・アグリコル S.A. 及び地域銀行の 100%を反映

2010 年第 1 四半期の業績を見直すために、さる 5 月 12 日、ルネ・カロンを議長とし、クレディ・アグリコル S.A.の取締役会が行われました。

景気、及び、金融市場は多少の改善はあったものの、依然、不透明感が強い状況下で、クレディ・アグリコル S.A.は力強い業績の伸びを達成することができました。純利益(グループ帰属分)は、すべての事業分野で好成績を収めましたために、2010 年第 1 四半期では前年同期比 2 倍以上の伸びを達成し、4.7 億ユーロとなりました。

継続的、かつ、堅調なモメンタムに支えられ、銀行業務純利益は 13.5%増加し、一方、営業費用はほぼ横ばい(1.2%増)の推移に留まったことから、営業総利益は前年同時期比で 47.5%増と、会社全体の好業績を反映するものとなりました。リスク関連費用の合計が 1.0%の減少と、安定していたことも、営業総利益の増加に寄与しました。

経常収益を計上する事業は、いずれも、このような強いモメンタムを反映しています。フランス国内のリテール・バンキング部門では、地域銀行のリテール業務における銀行業務純利益が 8.3%も伸び、預金高(7.2%増加)、融資残高(3.2%増)、共に堅調に推移しました。LCL では 43000 件の新規口座が純増となり、2009 年第 1 四半期比では 27%の増加となりました。一方、当座預金は 13.6%増加し、居住用住宅ローン貸付残高は 6%近く増加しました。このように、クレディ・アグリコル・グループはフランス経済におけるトップ金融機関の地位を確認することとなりました。国際リテール・バンキング事業においては、グループが営業基盤を持ついくつかの国々で景気が悪化しているにも関わらず、銀行業務純利益は 4.8%増加いたしました。

専門金融サービス部門におきましては、経常収益は前年同時期比で 15.3%増加しました。資産運用、保険、及び、プライベート・バンキング事業では、アムンディ、(Amundi)を創設し、カセイ(S(CACEIS))を買収したことにも支えられ、事業は堅調に推移しました。収益の総額が 2009 年第 1 四半期比でほぼ倍増の 146 億ユーロとなったことから、同部門の銀行業務純利益は 54.1%増加しました(同一条件ベースでは 24.1%増加)。

法人営業及び投資銀行部門では、前年同期の水準が通常以上に高かったことから、既存事業による収益は 8.6%減少しました。しかし前期比では、他部門の中でも、CA-CIB はストラクチャードファイナンス部門からの力強い寄与により、収益は 20.3%の増加となっております。

金融危機による悪影響が二年に及んだ後、法人営業及び投資銀行部門の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 1.57 億ユーロを計上いたしました。クレディ・アグリコル S.A.は一部事業からの撤退によって発生する最終的な損失額と回収額を堅めに想定しているものの、実際に発生している費用は予想通りに減少を続けており、既存事業による利益により(3.79 億ユーロ)、非継続事業によるコストを十分に吸収することができました。

ギリシャでは、経済状況が芳しくないにもかかわらず、昨年秋に発表したリストラ計画の進捗に伴い、エンポリキの営業総利益は 4600 万ユーロにまで改善いたしました。クレディ・アグリコルによるエンポリキの支援が奏功し、マージンと地元顧客からの信用が改善したため、収益は 25.1%回復し、一方、営業費用は 5.7%減少いたしました。しかし、新たな債権に関するリスク関連費用は低いにもかかわらず、1 年以上前に導入された会計基準に従い、マクロ経済の状況がすべての債権に影響することを考慮して、第 1 四半期には相当額の不良債権引当金を計上いたしました。

合意に従い、インテサ・サンパオロ(Intesa SanPaolo)における弊社持分 0.8%の株式売却は 2 月末までに完了しました。そのため、今第 1 四半期にはこの売却に伴う損失を計上しております。

クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 4.7 億ユーロとなりました。法人営業及び投資銀行部門の非継続事業による影響と、インテサ・サンパオロ株の売却損を除きますと、第 1 四半期の純利益は 8.5 億ユーロとなり、この数字がグループ事業全体の業績をより実態に即して表していると考えます。

*
* *

取締役会の最後に、ルネ・カロン議長は、以下のようなコメントを発表しました;「この決算はグループ全体が堅調であることを裏付けております。特に、リテール部門は、この分野で我々が強い基盤を持ち、成長のモメンタムが生じていることを示しています。クレディ・アグリコルはフランスの地域社会に根付いた伝統と顧客に忠実であり、また、フランス経済においても重要な金融のパートナーであることを確認するものであります。これまで以上に、弊社従業員一同、今日の難しい経済状況下にあって、顧客の信頼に応えるように尽くす所存であります。」

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのジャン-ポール・シフレは、以下のように付け加えました;「第 1 四半期の利益は、18 ヶ月前に打ち出したリフォーカス・ストラテジーが順調に進展しました結果、前年同期比で倍以上に増加いたしました。グループの従来型事業が好調であっただけでなく、法人営業及び投資銀行部門も 1.57 億ユーロのグループ純利益への寄与を達成いたしました。これらの決算はまた、ギリシャで想定される不良債権への引当てを充分に行った上での結果です。」

2010 年決算スケジュール

2010 年 5 月 19 日	年次総会
2010 年 5 月 27 日	権利落ち日
2010 年 6 月 21 日	配当支払い日
2010 年 8 月 26 日	2010 年第 1 四半期、及び、上半期決算
2010 年 11 月 10 日	2010 年第 3 四半期、及び、9 ヶ月決算

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1 / Q1	Change Q1 / Q4	Change Q1 / Q1 *
Net banking income	4,824	+18.8%	+7.3%	+13.5%
Operating expenses	(3,162)	+6.2%	(0.1%)	+1.2%
Gross operating income	1,662	+53.5%	+25.1%	+47.5%
Cost of risk	(1,074)	(1.0%)	(16.6%)	
Operating income	588	nm	nm	
Equity affiliates	425	+32.4%	x2.0	
Net income on other assets	(163)	nm	nm	
Tax	(270)	x3.3	nm	
Gain (loss) on discontinued operations	4	nm	nm	
Net income/(loss)	584	x2.4	7.6%	
Net income – Group share	470	x2.3	+8.5%	

* 同一条件ベース

2010 年第 1 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の**銀行業務純利益**は、2009 年第 1 四半期比 18.8%増加し、48.24 億ユーロとなりました。同一条件ベースでは、前年同時期比 13.5%増加しました。銀行業務純利益には、コア事業の堅調に支えられた、法人営業及び投資銀行部門による 13 億ユーロ近い寄与（10.7%増）、そして、資産運用、保険、プライベート・バンキングから 12 億ユーロ（54.1%増）の寄与、を含んでおります。また、専門金融サービス部門の業績が大変に好調で、銀行業務純利益が前年同期比で 15.3%増加し、9.83 億ユーロとなったことによる寄与もありました。LCL と国際リテール・バンキングは強い収益の伸びが持続し、前者の収益は 3.2%増の 9.65 億ユーロ、後者は 4.8%増の 7.22 億ユーロ、をそれぞれ達成しました。

同一条件ベースで、すべての事業分野と組織における厳しいコスト管理が奏功し、グループの**営業費用**は前年同期比でほぼ横ばい（1.2%増）に留まりました。その結果、2010 年 3 月 31 日時点のコスト/収益比率は 7.8%上昇し、65.5%と顕著に改善しました。

第 1 四半期の**営業総利益**は 16.62 億ユーロを達成し、前年同時期比で 53.5%の増加（同一条件ベースでは 47.5%増）となり、安定はしていますが、引き続き高い水準のリスク関連費用を容易に吸収することができました。

コスト関連費用は貸付残高の 95 ベーシス・ポイントを計上しておりますが、経済環境が明らかに安定化に向かっていることから、前年同期比で 1.0%減少いたしました。2009 年第 1 四半期と同様に、この費用の多くの部分は、国際リテール・バンキング（3.5 億ユーロ、主にエンポリキ向け）、専門金融サービス（3.28 億ユーロ）、及び、投資銀行業務（2.87 億ユーロ）向けに集中しております。ノン・パフォーミング・ローン¹は、2010 年 3 月 31 日時点で、貸付企業、個人顧客向け債権全体の 3.9%でした。これらノン・パフォーミングローンの 68.0%は、積立金を含む引当金によってカバーされています。

関連会社の収益は前年同時期比で 32.4%増え、4.25 億ユーロとなりました。フランス国内でのリテール・バンキング事業の好調、及び、グループ課税措置によるプラスの効果から、地域銀行部門による寄与がその多くを占めます（3.33 億ユーロ、2009 年第 1 四半期の 2.65 億ユーロに対して、25.7%の増加）。

2010 年第 1 四半期の**その他資産による純利益**は、インテサ・サンパオロの持分 0.8%を 1.59 ユーロで売却したことが主な要因で、1.63 億ユーロの赤字となりました。

全体では、**純利益グループ帰属分**は 4.7 億ユーロを達成し、前年同時期比で 2.3 倍の増加となりました。

財務状況

クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は引き続き健全に推移しております。コア・キャピタルは2010年第1四半期に647億ユーロ(控除前)に達し、前四半期比では1.7%増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.の自己資本比率は2009年第4四半期9.8%であったのに対し、今四半期は10.0%となりました。

ティア1ソルベンシー(支払能力)比率は2009年最終四半期の水準から0.1%上昇し、この四半期中に新たに大きな資本取引は発生しませんでした、2010年3月31日時点で9.6%となりました。

コア・ティア1比率は9.2%と、引き続き高水準を維持しております。

また、クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は強固な地域銀行にも下支えされています。格付けは、金融危機が勃発した2007年7月から変わっておらず、スタンダード&プアーズ社ではAA-、ムーディーズ Aa1、そして、フィッチ AA-となっております。

クレディ・アグリコル・グループの資本比率は、2010年3月末時点で11.2%、ティア1比率は10.0%でした。銀行開示ベース(unfloored)では、これらの比率はそれぞれ、12.5%及び10.8%でした。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net income accounted for at equity (at 25%)	209	+54.8%	+23.7%
Change in share of reserves	124	(4.6%)	nm
Income from equity affiliates	333	+25.7%	+92.9%
Tax*	-	nm	nm
Net income – Group share	333	+86.7%	+92.9%

* 2009 年までに地域銀行から受け取った配当の税金インパクト

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	965	+3.2%	(4.6%)
Operating expenses	(641)	(1.1%)	(2.9%)
Gross operating income	324	+12.9%	(7.9%)
Cost of risk	(96)	(2.8%)	(30.6%)
Operating income	228	+21.2%	+6.8%
Net income – Group share	151	+21.2%	+6.8%

2. 国際リテール・バンキング

第 1 四半期の国際リテール・バンキング部門は、ギリシャ経済の悪化による影響を受けました

エンポリキと 2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコ (Credit Uruguay Banco) を業務撤退に伴い譲渡した分を除けば、国際リテール・バンキング部門は底堅く推移しました。同事業による純利益グループ帰属分への寄与は今第 1 四半期に 8800 万ユーロと、前年同時期比で緩やかな 6.5% の減少となりました。クレディ・デュ・モロッコ (Credit du Maroc)、及び、クレディ・アグリコル・エジプトは共に順調で、銀行業務純利益は前年同時期比でほぼ横ばい (0.8% 減) でした。営業総利益の減少は前年同時期比で 5.8% でした。リスク関連費用は前年同時期比ではほぼ横ばいでしたが、前四半期に対しては 30.1% 減少しました。営業収益は 1.02 億ユーロで、前四半期比と比較して 14.8% 増加しました。

全体では、**エンポリキを含めた場合**、エンポリキが貸付事業のすべてのセグメントに関して、景気悪化に伴い 2.54 億ユーロという巨額の引当を行ったために、国際リテール・バンキング部門の決算はギリシャの景気悪化による影響を受けることとなりました。

合計では、エンポリキを含め、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分は 2010 年第 1 四半期に 9700 万ユーロの損失を計上いたしました。

注意：以下の 2009 年度決算数値は、2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコを業務撤退に伴い譲渡したことによる影響を調整済みです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	722	+4.8%	(2.4 %)
Operating expenses	(478)	(0.1%)	(3.8%)
Gross operating income	244	+16.0%	+0.5%
Cost of risk	(350)	+31.5%	+26.9%
Equity affiliates	47	+1.1%	x2.1
Pre-tax income	(59)	x5.9	nm
Net income from discontinued activities	4	nm	nm
Net income – Group share	(97)	x4.6	nm

ギリシャにおいて、エンポリキの営業成績は順調に推移しました。リストラ・再生計画に基づき、逆ザヤとなっている定期預金を大幅に減らしたことから、金利差益は大幅に改善し、銀行業務純利益は 25.1% 増加しました。加えて、エンポリキの貸付金利は 2010 年度予想よりも高く推移しました。更に、エンポリキはクレディ・アグリコル S.A. の支援によって、同業他社よりも低コストで資金を調達し、また、定期預金の上乗せ金利を支払わないというエンポリキ独自の決断にも関わらず、預金全体の減少を抑えることができました。費用は大幅に削減され、その結果、営業総利益は 4600 万ユーロに増加しました。

2010 年第 1 四半期のリスク関連費用はギリシャの経済状況を反映すべく引当を上積みしたことから、2.54 億ユーロとなりました。リストラ・再生戦略によって貸付け基準が厳しくなったことから、新規ローンのリスク関連費用はかなり低くなっております。また、欧州連合及び IMF がギリシャの救済緊急措置を発動したことから、クレディ・アグリコル S.A. はエンポリキのリストラ・再生計画の見直しを検討しております。

イタリアでは、カリパルマ・フリウルアドリア (Cariparma FriulAdria) が過去 12 ヶ月に渡り、短期金利が低かったこと、及び、2009 年 7 月にオーバードラフト・フィー (当座貸越手数料) が廃止になったことによる、マイナスの影響を受けました。銀行業務純利益は、手数料収入が底堅く推移し、中・長期貸付が順調に進んだにも関わらず、前年同時期比で 7.1% 減少しました。カリパルマ・フリウルアドリアが収益性重視の対策を講じたことから、費用の伸びは前年同時期比で 1.2% に留まりました。第 1 四半期のコスト関連費用は急劇に減少し (前四半期比では 9.0% 減)、対貸付残高 76 ベーシス・ポイントとなりました。

カリパルマ・フリウルアドリアによる純利益グループ帰属分への寄与は、2010 年第 1 四半期に 3300 万ユーロとなりました。カリパルマ・フリウルアドリア・グループのイタリアでの純利益は、2010 年第 1 四半期に 5150 万ユーロとなりました。

更に、クレディ・アグリコル S.A.はイタリアでのポジションを強化する計画です。クレディ・アグリコル S.A.はインテサ・サンパオロの 150 から 200 の支店を買収することによって、イタリア内の支店数を合計 900 以上に拡大することによって、イタリアでのポジションを現在の 9 位から 7 位へと引き上げる意向です。

最期に、我々はリテール業務を欧州及び地中海沿岸地方に再特化する計画であり、そのために、クレディ・ウルグアイ・バンコを BBVA に売却することに合意いたしました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	983	+15.3%	+0.8%
Operating expenses	(429)	(0.4%)	(3.1%)
Gross operating income	554	+31.2%	+4.1%
Cost of risk	(328)	+23.6%	(22.9%)
Operating income	226	+44.2%	x2.1
Equity affiliates	3	nm	nm
Pre-tax income	229	+44.0%	x2.1
Net income – Group share	127	+40.3%	(15.8%)

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*	Change Q1/Q1**
Net banking income	1,183	+54.1%	+13.1%	+24.1%
Operating expenses	(615)	+39.5%	+8.4%	+5.8%
Gross operating income	568	+74.0%	+18.8%	+52.5%
Cost of risk	(2)	nm	nm	nm
Equity affiliates	1	nm	nm	nm
Pre-tax income	564	+71.8%	+18.0%	+51.5%
Net income – Group share	349	+53.3%	(3.4%)	+49.4%

* 2009 年の数値は、BFT バンクのコーポレート・センターへの譲渡を調整済み。

** 同一ベース：アムンディの創設、カセイスの持分増加、及び、HSBC フランスの資産統合、を調整済み。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

金融危機の影響で厳しい状況が二年間続いた後、法人営業及び投資銀行部門は事業全体で、2010 年第 1 四半期に 1.57 億ユーロの純利益を計上いたしました。非継続事業による損失を、継続事業が十分に吸収し、純利益グループ帰属分は 3.79 億ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Q1 2010 Ongoing activities	Change Q1/Q1 Ongoing activities	Change Q1/Q4 Ongoing activities
Net banking income	1,281	1,463	(8.6%)	+20.3%
Operating expenses	(829)	(804)	+6.6%	+2.5%
Gross operating income	452	659	(22.1%)	+52.8%
Cost of risk	(287)	(147)	(51.3%)	(24.0%)
Operating income	165	512	(5.9%)	x2.1
Equity affiliates	34	34	(8.6%)	x2.3
Pre-tax income	199	546	(6.4%)	x2.1
Tax	(34)	(154)	(9.6%)	x5.0
Net income – Group share	157	379	(5.1%)	+75.2%

主に営業収益が堅調であったことから、継続事業による純利益グループ帰属分は前四半期比で 75.2%増加しました。ローン・ヘッジや発行済債券の再評価による影響を除いたベースで、銀行業務純利益は 2009 年第 4 四半期と比較して 7.4%増加しました。これはコア事業分野での強固なポジション、とりわけ、ストラクチャード・ファイナンスとキャピタル・マーケットでの強さを反映するものであります。

更に、非継続事業からの撤退も、業績改善に寄与しています。エキゾチック(非標準型)エクイティ・デリバティブや、その関連商品による業績への影響は、もはや顕在化するほどの額ではなく、CDO(債務担保証券)、CLO(ローン担保証券)、ABS(資産担保証券)及び、保証人に関する損金は減少しています。非継続事業に関する最終的な損失や ABS CDO の回収率についての前提を厳しく設定しているにも関わらず、撤退に関する費用は減少が続いています。全体では、非継続事業による純利益グループ帰属分への寄与は 2.22 億ユーロと、前四半期比で 33%以上減少しました。

継続事業におけるコスト/収益比率は 55%で、一方、リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、減少に向かっています。

戦略の方向転換に伴い、市場リスクへのエクスポージャーを減らしていることが主要因で、リスク削減は続いています。その結果、規制による VaR(ヴァリュアットリスク、最大損失予想額)におけるボラティリティが低下しており、2009 年 12 月 31 日に 2900 万ユーロであったのに対し、2010 年 3 月 31 日は 2700 万ユーロでした。

ファイナンス事業

ファイナンス部門では、収益は前四半期の 5.8 億ユーロから、2010 年第 1 四半期には前年同時期比で 12.3%増の 6.51 億ユーロ(ローン・ヘッジによる収益 3700 万ユーロを含む)となりました。今四半期には、ストラクチャード・ファイナンス、中でも、プロジェクトファイナンス、輸出ファイナンス、及び、商品ファイナンスの事業で強いモメンタムを享受しました。逆に、2009 年下半期に始まったマージンの低下に伴い、商業銀行事業の収益は若干ではありますが、減少しました。ローン・ヘッジのアクティブな運用によって、これらのインパクトを顕在化しない程度まで抑え、また、ボラティリティを顕著に縮小させました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	651	+42.8%	+12.3%
Operating expenses	(202)	(3.6%)	+0.2%
Gross operating income	449	+82.3%	+18.8%
Cost of risk	(131)	(52.2%)	(27.3%)
Operating income	318	nm	+61.0%
Equity affiliates	33	(13.4%)	x2.3
Pre-tax income	351	nm	+65.0%
Tax	(95)	nm	x2.4
Net income – Group share	246	nm	+45.7%

費用は厳しく管理され、2009 年第 1 四半期比で 3.6%減少しました。

リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、前四半期比で 27.3%減少しました。積立金は 17 億ユーロと安定しており(2009 年 12 月 31 日時点の 16 億ユーロと比較して)、バーゼル 1 のリスク・ウェイト資産に対するリスク関連費用は、2009 通年の 76 ベーシス・ポイントに対して、同四半期は 42 ベーシス・ポイントとなりました。

ファイナンス活動による純利益グループ帰属分は、今第 1 四半期に 2.46 億ユーロに達し、前四半期の 1.69 億ユーロに対して 45.7%増加しました。

資本市場及び投資銀行

資本市場及び投資銀行の収益は第 1 四半期に堅調に推移し、2009 年第 4 四半期比で 16%増加しました(発行債券の評価損を除くベース)。2010 年 5 月に、クレディ・アグリコル CIB と中国で No1 の投資銀行であり機関投資家向けの証券業務のトップ会社であるシティック証券(Citic Securities)は、将来的に同分野を拡大する戦略を基に、公式にエクスクルーシブな関係の構築に向けて協議を開始するという文書に署名をいたしました。その目的は、戦略の方向転換を推進し、アジアでの資本市場での成長機会を捉え、中国市場に強みを持つべく、二社が共同でアジア全域を地盤とし、大企業を顧客対象とする、トップ級の証券会社、及び、投資銀行を設立するというものです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	812	(29.0%)	+27.6%
Operating expenses	(602)	+10.5%	+3.3%
Gross operating income	210	(65.0%)	x4.0
Cost of risk	(16)	(41.9%)	+25.8%
Operating income	194	(66.1%)	x4.7
Equity affiliates	1	nm	(10.0%)
Pre-tax income	195	(65.8%)	x4.7
Tax	(59)	(64.8%)	nm
Net income – Group share	133	(66.3%)	x2.8

2010 年第 1 四半期に債券関連業務は再度、好成績を収め、収益は前年同時期比で 23%増加し、5.32 億ユーロとなりました。この業績は債券デリバティブズによる収益が堅調であったこと、及び、2009 年末の低迷から、事業が緩やかに回復していることによるものです。資金業務、及び、債券発行が堅調な収益基盤であったことも奏功いたしました。

シュブルー(Cheuvreux)と CLSA の両社における証券業務が、今四半期末にかけて順調に推移したことから、株式業務(株式デリバティブ、ブローカー業務、及び、アドバイザー・サービス)の収益は前四半期比で 6%増加し、3.78 億ユーロとなりました。ニューエッジ(Newedge)はプライム・ブローカレッジや商品分野での成績が好調で、上場市場でのトップ・ポジションを更に強化いたしました。仕組債券の評価損は、2010 年第 1 四半期にもマイナスの影響となり、9800 万

ユーロの損失を計上しました。

以上を合計すると、資本市場部門と投資銀行部門における継続事業の収益は 8.12 億ユーロとなり、2009 年第 4 四半期比で 27.6%増加しました。

資本市場部門と投資銀行部門における費用は前四半期比で 3.3%増加しました。コスト関連費用は適切に管理され、2009 年第 4 四半期に 1200 万ユーロであったのに対し、今四半期には 1600 万ユーロとなりました。その上に、継続事業の VaR(ヴァリューアットリスク、最大損失予想額)を 3500 万ユーロというリミットを大幅に下回る水準にリスクを抑えた一方で、収益の増加を達成いたしました。

資本市場部門における税引き後の純利益グループ帰属分は 1.33 億ユーロと、2009 年第 4 四半期比で 2.8 倍となりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	(182)	(58.9%)	(32.8%)
Operating expenses	(25)	(13.8%)	(24.2%)
Gross operating income	(207)	(56.1%)	(31.9%)
Cost of risk	(140)	+4.5%	(36.9%)
Pre-tax income	(347)	(42.7%)	(34.0%)
Tax	120	(33.7%)	(35.1%)
Net income – Group share	(222)	(46.6%)	(33.3%)

非継続事業による収益は今第 1 四半期に 1.82 億ユーロの赤字となりました。これは 2009 年第 4 四半期の 2.71 億ユーロの赤字と比較すると、大幅な改善となります。

CDO、CLO、及び、ABS ポートフォリオの最終的な損失額と回収率の前提は、2009 年よりは少ないものの、引き続き、保守的に設定しております。これは、米国の居住用住宅ローン向けを中心に、銀行業務純利益、及び、無担保融資、保証付き融資のコスト関連費用に関して、評価損が再度計上されることを想定するためです。

コリレーション事業では、ポートフォリオの動向や指標は、2009 年に開始された安定化計画に沿ったものとなっています。加えて、エキゾチック(非標準型)株式デリバティブによる影響はすでに認識されない程度のもthingとなっております。

全体では、純利益グループ帰属分は 1.2 億ユーロの税額控除後ベースで 2.2 億ユーロの損失を計上いたしました。

6. コーポレート・センター(その他財務収支等)

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*
Net banking income	(310)	(11.9%)	+31.3%
Operating expenses	(170)	(9.0%)	+0.7%
Gross operating income	(480)	(10.9%)	+18.6%
Cost of risk	(11)	(41.9%)	(64.7%)
Operating income	(491)	(12.0%)	+12.4%
Equity affiliates	7	nm	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(160)	nm	nm
Pre-tax income	(644)	+9.6%	+44.8%
Net income – Group share	(550)	+44.1%	+79.2%

* BFT バンク(BFT Banque)を 2010 年第 1 四半期にコーポレート・センターへ移管したことから、上記の伸び率は、プロフォーマ・ベース(見積もり)です。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

クレディ・アグリコルの純利益グループ帰属分は、グループ・ベースでアムンディ(Amundi)の創設、カセイス(Caceis)の買収、といった業容の拡大があったこと、及び、経済状況が安定に向かい、すべての事業分野で利益率が向上したこと等の状況を反映し、前年同時期比で2.2倍の9.49億ユーロとなりました。

今第1四半期の銀行業務純利益は前期比15.8%増の83億ユーロとなりました。費用は前年同時期比では5.3%増加しましたが、合理化効果に伴い、前四半期との比較では2.7%の増加に留まりました。

営業総利益は地域銀行の業績が大変に好調であったことも寄与し、前年同時期比で36.6%増、前四半期比では17.2%増の33億ユーロを達成いたしました。

2010年第1四半期にはエンボリキが大幅な評価減を行ったにもかかわらず、リスク関連費用は前年同時期比でほぼ横ばい、前四半期比では17.2%減少しました。

€	Q1-10	△ Q1/Q1	△ Q1/Q4*
Net banking income	8,335	+15.8%	+4.3%
Operating expenses	(5,030)	+5.3%	(2.7%)
Gross operation income	3,305	+36.6%	+17.2%
Cost of risk	(1,541)	(1.2%)	(11.8%)
Operating income	1,764	X2.1	+64.6%
Equity affiliates	89	64.8%	X2.8
Net income on other assets	(162)	nm	nm
Pre-tax income	1,691	+85.2%	+51.1%
Tax	(633)	+41.3%	X5.8
Net income	1,062	X2.3	(0.5%)
Net income – Group share	949	X2.2	(0.7%)

クレディ・アグリコル S.A.の2010年第1四半期の財務情報は、当プレス・リリース及び添付の資料から構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、<http://finance.credit-agricole.com>の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq.の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

Press relations

Crédit Agricole S.A.

Anne-Sophie Gentil ☎ +33 (0)1 43 23 37 51

M: Communication

Louise Tingström ☎ +44 (0) 789 906 6995

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78

Nathalie Auzénat +33 (0) 1 57 72 37 81

Sébastien Chavane +33 (0) 1 57 72 23 46

Fabienne Heures +33 (0) 1 43 23 06 38

Marie-Agnès Huguenin +33 (0) 1 43 23 15 99

Aurélien Marboeuf +33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment.

Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.

【本稿は同日リリースの英文の Credit Agricole Group Results at 31 March 2010 の抄訳です】

2010 年 5 月 12 日 パリ

2010年第1四半期

クレディ・アグリコル・グループ*

純利益(グループ帰属分): 9.49 億ユーロ
ティア1比率: 10.0%

クレディ・アグリコルS.A.

- 銀行業務純利益: 前年同期比 18.8%増加、同一条件ベースで 13.5%増加
- 営業総利益: 前年同期比 53.5%増加、同一条件ベースで 47.5%増加
- リスク関連費用: 前年同期比 1.0%減少
- 純利益(グループ帰属分): 4.7 億ユーロ前年同期比 2.3 倍
- ティア1比率: 9.6%、内 コア・ティア1比率: 9.2%

*クレディ・アグリコル S.A. 及び地域銀行の 100%を反映

2010 年第 1 四半期の業績を見直すために、さる 5 月 12 日、ルネ・カロンを議長とし、クレディ・アグリコル S.A.の取締役会が行われました。

景気、及び、金融市場は多少の改善はあったものの、依然、不透明感が強い状況下で、クレディ・アグリコル S.A.は力強い業績の伸びを達成することができました。純利益(グループ帰属分)は、すべての事業分野で好成績を収めましたために、2010 年第 1 四半期では前年同期比 2 倍以上の伸びを達成し、4.7 億ユーロとなりました。

継続的、かつ、堅調なモメンタムに支えられ、銀行業務純利益は 13.5%増加し、一方、営業費用はほぼ横ばい(1.2%増)の推移に留まったことから、営業総利益は前年同時期比で 47.5%増と、会社全体の好業績を反映するものとなりました。リスク関連費用の合計が 1.0%の減少と、安定していたことも、営業総利益の増加に寄与しました。

経常収益を計上する事業は、いずれも、このような強いモメンタムを反映しています。フランス国内のリテール・バンキング部門では、地域銀行のリテール業務における銀行業務純利益が 8.3%も伸び、預金高(7.2%増加)、融資残高(3.2%増)、共に堅調に推移しました。LCL では 43000 件の新規口座が純増となり、2009 年第 1 四半期比では 27%の増加となりました。一方、当座預金は 13.6%増加し、居住用住宅ローン貸付残高は 6%近く増加しました。このように、クレディ・アグリコル・グループはフランス経済におけるトップ金融機関の地位を確認することとなりました。国際リテール・バンキング事業においては、グループが営業基盤を持ついくつかの国々で景気が悪化しているにも関わらず、銀行業務純利益は 4.8%増加いたしました。

専門金融サービス部門におきましては、経常収益は前年同時期比で 15.3%増加しました。資産運用、保険、及び、プライベート・バンキング事業では、アムンディ、(Amundi)を創設し、カセイ(S(CACEIS))を買収したことにも支えられ、事業は堅調に推移しました。収益の総額が 2009 年第 1 四半期比でほぼ倍増の 146 億ユーロとなったことから、同部門の銀行業務純利益は 54.1%増加しました(同一条件ベースでは 24.1%増加)。

法人営業及び投資銀行部門では、前年同期の水準が通常以上に高かったことから、既存事業による収益は 8.6%減少しました。しかし前期比では、他部門の中でも、CA-CIB はストラクチャードファイナンス部門からの力強い寄与により、収益は 20.3%の増加となっております。

金融危機による悪影響が二年に及んだ後、法人営業及び投資銀行部門の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 1.57 億ユーロを計上いたしました。クレディ・アグリコル S.A.は一部事業からの撤退によって発生する最終的な損失額と回収額を堅めに想定しているものの、実際に発生している費用は予想通りに減少を続けており、既存事業による利益により(3.79 億ユーロ)、非継続事業によるコストを十分に吸収することができました。

ギリシャでは、経済状況が芳しくないにもかかわらず、昨年秋に発表したリストラ計画の進捗に伴い、エンポリキの営業総利益は 4600 万ユーロにまで改善いたしました。クレディ・アグリコルによるエンポリキの支援が奏功し、マージンと地元顧客からの信用が改善したため、収益は 25.1%回復し、一方、営業費用は 5.7%減少いたしました。しかし、新たな債権に関するリスク関連費用は低いにもかかわらず、1 年以上前に導入された会計基準に従い、マクロ経済の状況がすべての債権に影響することを考慮して、第 1 四半期には相当額の不良債権引当金を計上いたしました。

合意に従い、インテサ・サンパオロ(Intesa SanPaolo)における弊社持分 0.8%の株式売却は 2 月末までに完了しました。そのため、今第 1 四半期にはこの売却に伴う損失を計上しております。

クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、第 1 四半期に 4.7 億ユーロとなりました。法人営業及び投資銀行部門の非継続事業による影響と、インテサ・サンパオロ株の売却損を除きますと、第 1 四半期の純利益は 8.5 億ユーロとなり、この数字がグループ事業全体の業績をより実態に即して表していると考えます。

*
* *

取締役会の最後に、ルネ・カロン議長は、以下のようなコメントを発表しました;「この決算はグループ全体が堅調であることを裏付けております。特に、リテール部門は、この分野で我々が強い基盤を持ち、成長のモメンタムが生じていることを示しています。クレディ・アグリコルはフランスの地域社会に根付いた伝統と顧客に忠実であり、また、フランス経済においても重要な金融のパートナーであることを確認するものであります。これまで以上に、弊社従業員一同、今日の難しい経済状況下にあって、顧客の信頼に応えるように尽くす所存であります。」

チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのジャン-ポール・シフレは、以下のように付け加えました;「第 1 四半期の利益は、18 ヶ月前に打ち出したリフォーカス・ストラテジーが順調に進展しました結果、前年同期比で倍以上に増加いたしました。グループの従来型事業が好調であっただけでなく、法人営業及び投資銀行部門も 1.57 億ユーロのグループ純利益への寄与を達成いたしました。これらの決算はまた、ギリシャで想定される不良債権への引当てを充分に行った上での結果です。

2010 年決算スケジュール

2010 年 5 月 19 日	年次総会
2010 年 5 月 27 日	権利落ち日
2010 年 6 月 21 日	配当支払い日
2010 年 8 月 26 日	2010 年第 1 四半期、及び、上半期決算
2010 年 11 月 10 日	2010 年第 3 四半期、及び、9 ヶ月決算

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1 / Q1	Change Q1 / Q4	Change Q1 / Q1 *
Net banking income	4,824	+18.8%	+7.3%	+13.5%
Operating expenses	(3,162)	+6.2%	(0.1%)	+1.2%
Gross operating income	1,662	+53.5%	+25.1%	+47.5%
Cost of risk	(1,074)	(1.0%)	(16.6%)	
Operating income	588	nm	nm	
Equity affiliates	425	+32.4%	x2.0	
Net income on other assets	(163)	nm	nm	
Tax	(270)	x3.3	nm	
Gain (loss) on discontinued operations	4	nm	nm	
Net income/(loss)	584	x2.4	7.6%	
Net income – Group share	470	x2.3	+8.5%	

* 同一条件ベース

2010 年第 1 四半期に、クレディ・アグリコル S.A.の**銀行業務純利益**は、2009 年第 1 四半期比 18.8%増加し、48.24 億ユーロとなりました。同一条件ベースでは、前年同時期比 13.5%増加しました。銀行業務純利益には、コア事業の堅調に支えられた、法人営業及び投資銀行部門による 13 億ユーロ近い寄与(10.7%増)、そして、資産運用、保険、プライベート・バンキングから 12 億ユーロ(54.1%増)の寄与、を含んでおります。また、専門金融サービス部門の業績が大変に好調で、銀行業務純利益が前年同期比で 15.3%増加し、9.83 億ユーロとなったことによる寄与もありました。LCL と国際リテール・バンキングは強い収益の伸びが持続し、前者の収益は 3.2%増の 9.65 億ユーロ、後者は 4.8%増の 7.22 億ユーロ、をそれぞれ達成しました。

同一条件ベースで、すべての事業分野と組織における厳しいコスト管理が奏功し、グループの**営業費用**は前年同期比でほぼ横ばい(1.2%増)に留まりました。その結果、2010 年 3 月 31 日時点のコスト/収益比率は 7.8%上昇し、65.5%と顕著に改善しました。

第 1 四半期の**営業総利益**は 16.62 億ユーロを達成し、前年同時期比で 53.5%の増加(同一条件ベースでは 47.5%増)となり、安定はしていますが、引き続き高い水準のリスク関連費用を容易に吸収することができました。

コスト関連費用は貸付残高の 95 ベーシス・ポイントを計上しておりますが、経済環境が明らかに安定化に向かっていることから、前年同期比で 1.0%減少いたしました。2009 年第 1 四半期と同様に、この費用の多くの部分は、国際リテール・バンキング(3.5 億ユーロ、主にエンポリキ向け)、専門金融サービス(3.28 億ユーロ)、及び、投資銀行業務(2.87 億ユーロ)向けに集中しております。ノン・パフォーミング・ローン¹は、2010 年 3 月 31 日時点で、貸付企業、個人顧客向け債権全体の 3.9%でした。これらノン・パフォーミングローンの 68.0%は、積立金を含む引当金によってカバーされています。

関連会社の収益は前年同時期比で 32.4%増え、4.25 億ユーロとなりました。フランス国内でのリテール・バンキング事業の好調、及び、グループ課税措置によるプラスの効果から、地域銀行部門による寄与がその多くを占めます(3.33 億ユーロ、2009 年第 1 四半期の 2.65 億ユーロに対して、25.7%の増加)。

2010 年第 1 四半期の**その他資産による純利益**は、インテサ・サンパオロの持分 0.8%を 1.59 ユーロで売却したことが主な要因で、1.63 億ユーロの赤字となりました。

全体では、**純利益グループ帰属分**は 4.7 億ユーロを達成し、前年同時期比で 2.3 倍の増加となりました。

財務状況

クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は引き続き健全に推移しております。コア・キャピタルは2010年第1四半期に647億ユーロ(控除前)に達し、前四半期比では1.7%増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.の自己資本比率は2009年第4四半期9.8%であったのに対し、今四半期は10.0%となりました。

ティア1ソルベンシー(支払能力)比率は2009年最終四半期の水準から0.1%上昇し、この四半期中に新たに大きな資本取引は発生しませんでした、2010年3月31日時点で9.6%となりました。

コア・ティア1比率は9.2%と、引き続き高水準を維持しております。

また、クレディ・アグリコル S.A.の財務状況は強固な地域銀行にも下支えされています。格付けは、金融危機が勃発した2007年7月から変わっておらず、スタンダード&プアーズ社ではAA-、ムーディーズ Aa1、そして、フィッチ AA-となっております。

クレディ・アグリコル・グループの資本比率は、2010年3月末時点で11.2%、ティア1比率は10.0%でした。銀行開示ベース(unfloored)では、これらの比率はそれぞれ、12.5%及び10.8%でした。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net income accounted for at equity (at 25%)	209	+54.8%	+23.7%
Change in share of reserves	124	(4.6%)	nm
Income from equity affiliates	333	+25.7%	+92.9%
Tax*	-	nm	nm
Net income – Group share	333	+86.7%	+92.9%

* 2009 年までに地域銀行から受け取った配当の税金インパクト

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	965	+3.2%	(4.6%)
Operating expenses	(641)	(1.1%)	(2.9%)
Gross operating income	324	+12.9%	(7.9%)
Cost of risk	(96)	(2.8%)	(30.6%)
Operating income	228	+21.2%	+6.8%
Net income – Group share	151	+21.2%	+6.8%

2. 国際リテール・バンキング

第 1 四半期の国際リテール・バンキング部門は、ギリシャ経済の悪化による影響を受けました

エンポリキと 2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコ (Credit Uruguay Banco) を業務撤退に伴い譲渡した分を除けば、国際リテール・バンキング部門は底堅く推移しました。同事業による純利益グループ帰属分への寄与は今第 1 四半期に 8800 万ユーロと、前年同時期比で緩やかな 6.5% の減少となりました。クレディ・デュ・モロッコ (Credit du Maroc)、及び、クレディ・アグリコル・エジプトは共に順調で、銀行業務純利益は前年同時期比でほぼ横ばい (0.8% 減) でした。営業総利益の減少は前年同時期比で 5.8% でした。リスク関連費用は前年同時期比ではほぼ横ばいでしたが、前四半期に対しては 30.1% 減少しました。営業収益は 1.02 億ユーロで、前四半期比と比較して 14.8% 増加しました。

全体では、**エンポリキを含めた場合**、エンポリキが貸付事業のすべてのセグメントに関して、景気悪化に伴い 2.54 億ユーロという巨額の引当を行ったために、国際リテール・バンキング部門の決算はギリシャの景気悪化による影響を受けることとなりました。

合計では、エンポリキを含め、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分は 2010 年第 1 四半期に 9700 万ユーロの損失を計上いたしました。

注意：以下の 2009 年度決算数値は、2010 年第 1 四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコを業務撤退に伴い譲渡したことによる影響を調整済みです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	722	+4.8%	(2.4 %)
Operating expenses	(478)	(0.1%)	(3.8%)
Gross operating income	244	+16.0%	+0.5%
Cost of risk	(350)	+31.5%	+26.9%
Equity affiliates	47	+1.1%	x2.1
Pre-tax income	(59)	x5.9	nm
Net income from discontinued activities	4	nm	nm
Net income – Group share	(97)	x4.6	nm

ギリシャにおいて、エンポリキの営業成績は順調に推移しました。リストラ・再生計画に基づき、逆ザヤとなっている定期預金を大幅に減らしたことから、金利差益は大幅に改善し、銀行業務純利益は 25.1% 増加しました。加えて、エンポリキの貸付金利は 2010 年度予想よりも高く推移しました。更に、エンポリキはクレディ・アグリコル S.A. の支援によって、同業他社よりも低コストで資金を調達し、また、定期預金の上乗せ金利を支払わないというエンポリキ独自の決断にも関わらず、預金全体の減少を抑えることができました。費用は大幅に削減され、その結果、営業総利益は 4600 万ユーロに増加しました。

2010 年第 1 四半期のリスク関連費用はギリシャの経済状況を反映すべく引当を上積みしたことから、2.54 億ユーロとなりました。リストラ・再生戦略によって貸付け基準が厳しくなったことから、新規ローンのリスク関連費用はかなり低くなっております。また、欧州連合及び IMF がギリシャの救済緊急措置を発動したことから、クレディ・アグリコル S.A. はエンポリキのリストラ・再生計画の見直しを検討しております。

イタリアでは、カリパルマ・フリウルアドリア (Cariparma FriulAdria) が過去 12 ヶ月に渡り、短期金利が低かったこと、及び、2009 年 7 月にオーバードラフト・フィー (当座貸越手数料) が廃止になったことによる、マイナスの影響を受けました。銀行業務純利益は、手数料収入が底堅く推移し、中・長期貸付が順調に進んだにも関わらず、前年同時期比で 7.1% 減少しました。カリパルマ・フリウルアドリアが収益性重視の対策を講じたことから、費用の伸びは前年同時期比で 1.2% に留まりました。第 1 四半期のコスト関連費用は急劇に減少し (前四半期比では 9.0% 減)、対貸付残高 76 ベーシス・ポイントとなりました。

カリパルマ・フリウルアドリアによる純利益グループ帰属分への寄与は、2010 年第 1 四半期に 3300 万ユーロとなりました。カリパルマ・フリウルアドリア・グループのイタリアでの純利益は、2010 年第 1 四半期に 5150 万ユーロとなりました。

更に、クレディ・アグリコル S.A.はイタリアでのポジションを強化する計画です。クレディ・アグリコル S.A.はインテサ・サンパオロの 150 から 200 の支店を買収することによって、イタリア内の支店数を合計 900 以上に拡大することによって、イタリアでのポジションを現在の 9 位から 7 位へと引き上げる意向です。

最期に、我々はリテール業務を欧州及び地中海沿岸地方に再特化する計画であり、そのために、クレディ・ウルグアイ・バンコを BBVA に売却することに合意いたしました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	983	+15.3%	+0.8%
Operating expenses	(429)	(0.4%)	(3.1%)
Gross operating income	554	+31.2%	+4.1%
Cost of risk	(328)	+23.6%	(22.9%)
Operating income	226	+44.2%	x2.1
Equity affiliates	3	nm	nm
Pre-tax income	229	+44.0%	x2.1
Net income – Group share	127	+40.3%	(15.8%)

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*	Change Q1/Q1**
Net banking income	1,183	+54.1%	+13.1%	+24.1%
Operating expenses	(615)	+39.5%	+8.4%	+5.8%
Gross operating income	568	+74.0%	+18.8%	+52.5%
Cost of risk	(2)	nm	nm	nm
Equity affiliates	1	nm	nm	nm
Pre-tax income	564	+71.8%	+18.0%	+51.5%
Net income – Group share	349	+53.3%	(3.4%)	+49.4%

* 2009 年の数値は、BFT バンクのコーポレート・センターへの譲渡を調整済み。

** 同一ベース：アムンディの創設、カセイスの持分増加、及び、HSBC フランスの資産統合、を調整済み。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

金融危機の影響で厳しい状況が二年間続いた後、法人営業及び投資銀行部門は事業全体で、2010 年第 1 四半期に 1.57 億ユーロの純利益を計上いたしました。非継続事業による損失を、継続事業が十分に吸収し、純利益グループ帰属分は 3.79 億ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Q1 2010 Ongoing activities	Change Q1/Q1 Ongoing activities	Change Q1/Q4 Ongoing activities
Net banking income	1,281	1,463	(8.6%)	+20.3%
Operating expenses	(829)	(804)	+6.6%	+2.5%
Gross operating income	452	659	(22.1%)	+52.8%
Cost of risk	(287)	(147)	(51.3%)	(24.0%)
Operating income	165	512	(5.9%)	x2.1
Equity affiliates	34	34	(8.6%)	x2.3
Pre-tax income	199	546	(6.4%)	x2.1
Tax	(34)	(154)	(9.6%)	x5.0
Net income – Group share	157	379	(5.1%)	+75.2%

主に営業収益が堅調であったことから、継続事業による純利益グループ帰属分は前四半期比で 75.2%増加しました。ローン・ヘッジや発行済債券の再評価による影響を除いたベースで、銀行業務純利益は 2009 年第 4 四半期と比較して 7.4%増加しました。これはコア事業分野での強固なポジション、とりわけ、ストラクチャード・ファイナンスとキャピタル・マーケットでの強さを反映するものであります。

更に、非継続事業からの撤退も、業績改善に寄与しています。エキゾチック(非標準型)エクイティ・デリバティブや、その関連商品による業績への影響は、もはや顕在化するほどの額ではなく、CDO(債務担保証券)、CLO(ローン担保証券)、ABS(資産担保証券)及び、保証人に関する損金は減少しています。非継続事業に関する最終的な損失や ABS CDO の回収率についての前提を厳しく設定しているにも関わらず、撤退に関する費用は減少が続いています。全体では、非継続事業による純利益グループ帰属分への寄与は 2.22 億ユーロと、前四半期比で 33%以上減少しました。

継続事業におけるコスト/収益比率は 55%で、一方、リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、減少に向かっています。

戦略の方向転換に伴い、市場リスクへのエクスポージャーを減らしていることが主要因で、リスク削減は続いています。その結果、規制による VaR(ヴァリュアットリスク、最大損失予想額)におけるボラティリティが低下しており、2009 年 12 月 31 日に 2900 万ユーロであったのに対し、2010 年 3 月 31 日は 2700 万ユーロでした。

ファイナンス事業

ファイナンス部門では、収益は前四半期の 5.8 億ユーロから、2010 年第 1 四半期には前年同時期比で 12.3%増の 6.51 億ユーロ(ローン・ヘッジによる収益 3700 万ユーロを含む)となりました。今四半期には、ストラクチャード・ファイナンス、中でも、プロジェクトファイナンス、輸出ファイナンス、及び、商品ファイナンスの事業で強いモメンタムを享受しました。逆に、2009 年下半期に始まったマージンの低下に伴い、商業銀行事業の収益は若干ではありますが、減少しました。ローン・ヘッジのアクティブな運用によって、これらのインパクトを顕在化しない程度まで抑え、また、ボラティリティを顕著に縮小させました。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	651	+42.8%	+12.3%
Operating expenses	(202)	(3.6%)	+0.2%
Gross operating income	449	+82.3%	+18.8%
Cost of risk	(131)	(52.2%)	(27.3%)
Operating income	318	nm	+61.0%
Equity affiliates	33	(13.4%)	x2.3
Pre-tax income	351	nm	+65.0%
Tax	(95)	nm	x2.4
Net income – Group share	246	nm	+45.7%

費用は厳しく管理され、2009 年第 1 四半期比で 3.6%減少しました。

リスク関連費用は、新たに顕著に不採算となる契約は発生していないために、前四半期比で 27.3%減少しました。積立金は 17 億ユーロと安定しており(2009 年 12 月 31 日時点の 16 億ユーロと比較して)、バーゼル 1 のリスク・ウェイト資産に対するリスク関連費用は、2009 通年の 76 ベーシス・ポイントに対して、同四半期は 42 ベーシス・ポイントとなりました。

ファイナンス活動による純利益グループ帰属分は、今第 1 四半期に 2.46 億ユーロに達し、前四半期の 1.69 億ユーロに対して 45.7%増加しました。

資本市場及び投資銀行

資本市場及び投資銀行の収益は第 1 四半期に堅調に推移し、2009 年第 4 四半期比で 16%増加しました(発行債券の評価損を除くベース)。2010 年 5 月に、クレディ・アグリコル CIB と中国で No1 の投資銀行であり機関投資家向けの証券業務のトップ会社であるシティック証券(Citic Securities)は、将来的に同分野を拡大する戦略を基に、公式にエクスクルーシブな関係の構築に向けて協議を開始するという文書に署名をいたしました。その目的は、戦略の方向転換を推進し、アジアでの資本市場での成長機会を捉え、中国市場に強みを持つべく、二社が共同でアジア全域を地盤とし、大企業を顧客対象とする、トップ級の証券会社、及び、投資銀行を設立するというものです。

(in millions of euros)	Q1 2010	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	812	(29.0%)	+27.6%
Operating expenses	(602)	+10.5%	+3.3%
Gross operating income	210	(65.0%)	x4.0
Cost of risk	(16)	(41.9%)	+25.8%
Operating income	194	(66.1%)	x4.7
Equity affiliates	1	nm	(10.0%)
Pre-tax income	195	(65.8%)	x4.7
Tax	(59)	(64.8%)	nm
Net income – Group share	133	(66.3%)	x2.8

2010 年第 1 四半期に債券関連業務は再度、好成績を収め、収益は前年同時期比で 23%増加し、5.32 億ユーロとなりました。この業績は債券デリバティブズによる収益が堅調であったこと、及び、2009 年末の低迷から、事業が緩やかに回復していることによるものです。資金業務、及び、債券発行が堅調な収益基盤であったことも奏功いたしました。

シュブルー(Cheuvreux)と CLSA の両社における証券業務が、今四半期末にかけて順調に推移したことから、株式業務(株式デリバティブ、ブローカー業務、及び、アドバイザー・サービス)の収益は前四半期比で 6%増加し、3.78 億ユーロとなりました。ニューエッジ(Newedge)はプライム・ブローカレッジや商品分野での成績が好調で、上場市場でのトップ・ポジションを更に強化いたしました。仕組債券の評価損は、2010 年第 1 四半期にもマイナスの影響となり、9800 万

ユーロの損失を計上しました。

以上を合計すると、資本市場部門と投資銀行部門における継続事業の収益は 8.12 億ユーロとなり、2009 年第 4 四半期比で 27.6%増加しました。

資本市場部門と投資銀行部門における費用は前四半期比で 3.3%増加しました。コスト関連費用は適切に管理され、2009 年第 4 四半期に 1200 万ユーロであったのに対し、今四半期には 1600 万ユーロとなりました。その上に、継続事業の VaR(ヴァリューアットリスク、最大損失予想額)を 3500 万ユーロというリミットを大幅に下回る水準にリスクを抑えた一方で、収益の増加を達成いたしました。

資本市場部門における税引き後の純利益グループ帰属分は 1.33 億ユーロと、2009 年第 4 四半期比で 2.8 倍となりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1	Change Q1/Q4
Net banking income	(182)	(58.9%)	(32.8%)
Operating expenses	(25)	(13.8%)	(24.2%)
Gross operating income	(207)	(56.1%)	(31.9%)
Cost of risk	(140)	+4.5%	(36.9%)
Pre-tax income	(347)	(42.7%)	(34.0%)
Tax	120	(33.7%)	(35.1%)
Net income – Group share	(222)	(46.6%)	(33.3%)

非継続事業による収益は今第 1 四半期に 1.82 億ユーロの赤字となりました。これは 2009 年第 4 四半期の 2.71 億ユーロの赤字と比較すると、大幅な改善となります。

CDO、CLO、及び、ABS ポートフォリオの最終的な損失額と回収率の前提は、2009 年よりは少ないものの、引き続き、保守的に設定しております。これは、米国の居住用住宅ローン向けを中心に、銀行業務純利益、及び、無担保融資、保証付き融資のコスト関連費用に関して、評価損が再度計上されることを想定するためです。

コリレーション事業では、ポートフォリオの動向や指標は、2009 年に開始された安定化計画に沿ったものとなっております。加えて、エキゾチック(非標準型)株式デリバティブによる影響はすでに認識されない程度のもとなっております。

全体では、純利益グループ帰属分は 1.2 億ユーロの税額控除後ベースで 2.2 億ユーロの損失を計上いたしました。

6. コーポレート・センター(その他財務収支等)

(in millions of euros)	Q1-10	Change Q1/Q1*	Change Q1/Q4*
Net banking income	(310)	(11.9%)	+31.3%
Operating expenses	(170)	(9.0%)	+0.7%
Gross operating income	(480)	(10.9%)	+18.6%
Cost of risk	(11)	(41.9%)	(64.7%)
Operating income	(491)	(12.0%)	+12.4%
Equity affiliates	7	nm	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(160)	nm	nm
Pre-tax income	(644)	+9.6%	+44.8%
Net income – Group share	(550)	+44.1%	+79.2%

* BFT バンク(BFT Banque)を 2010 年第 1 四半期にコーポレート・センターへ移管したことから、上記の伸び率は、プロフォーマ・ベース(見積もり)です。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

クレディ・アグリコルの純利益グループ帰属分は、グループ・ベースでアムンディ(Amundi)の創設、カセイス(Caceis)の買収、といった業容の拡大があったこと、及び、経済状況が安定に向かい、すべての事業分野で利益率が向上したこと等の状況を反映し、前年同時期比で2.2倍の9.49億ユーロとなりました。

今第1四半期の銀行業務純利益は前期比15.8%増の83億ユーロとなりました。費用は前年同時期比では5.3%増加しましたが、合理化効果に伴い、前四半期との比較では2.7%の増加に留まりました。

営業総利益は地域銀行の業績が大変に好調であったことも寄与し、前年同時期比で36.6%増、前四半期比では17.2%増の33億ユーロを達成いたしました。

2010年第1四半期にはエンボリキが大幅な評価減を行ったにもかかわらず、リスク関連費用は前年同時期比でほぼ横ばい、前四半期比では17.2%減少しました。

€	Q1-10	△Q1/Q1	△Q1/Q4*
Net banking income	8,335	+15.8%	+4.3%
Operating expenses	(5,030)	+5.3%	(2.7%)
Gross operation income	3,305	+36.6%	+17.2%
Cost of risk	(1,541)	(1.2%)	(11.8%)
Operating income	1,764	X2.1	+64.6%
Equity affiliates	89	64.8%	X2.8
Net income on other assets	(162)	nm	nm
Pre-tax income	1,691	+85.2%	+51.1%
Tax	(633)	+41.3%	X5.8
Net income	1,062	X2.3	(0.5%)
Net income – Group share	949	X2.2	(0.7%)

クレディ・アグリコル S.A.の2010年第1四半期の財務情報は、当プレス・リリース及び添付の資料から構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、<http://finance.credit-agricole.com>の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq.の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

Press relations

Crédit Agricole S.A.

Anne-Sophie Gentil ☎ +33 (0)1 43 23 37 51

M: Communication

Louise Tingström ☎ +44 (0) 789 906 6995

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber +33 (0) 1 43 23 26 78

Nathalie Auzénat +33 (0) 1 57 72 37 81

Sébastien Chavane +33 (0) 1 57 72 23 46

Fabienne Heures +33 (0) 1 43 23 06 38

Marie-Agnès Huguenin +33 (0) 1 43 23 15 99

Aurélien Marboeuf +33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment.

Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.